

徳島市城東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成
- ②学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成
- ③タブレット端末の有効な活用実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
根津道子	(校長)木屋村泰子(教頭)榎並正人、吉本真由美 (主幹教諭)齋藤大志(指導教諭)河野浩美 (教務主任)北田雅哉(学年主任)高橋利明 (研修主任)岸本弥里

校長

木屋村泰子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学習のしかたがわかる生徒の育成

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や「学び合いウイーク」の実施、アンケートの振り返り等、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○大部分の生徒が落ち着いて授業に取り組み、授業内容が理解できたと答えている。 ●学力の二極化傾向が見られる。長い文章を読み取ることを苦手とする生徒も多く、全体的にも基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着しているとは言えない。	・学習課題や目標に対する振り返りを行い、基礎的・基本的な知識・技能が定着している。 ・文章の内容を正しく理解しながら読むことができる。また、学習したことを実生活と関連づけながら理解を深めることができる。	・「振り返り」を徹底し、学習内容の定着をはかる。 ・学期に一度「学び合いウイーク」を設定し、タブレット端末やICTの活用、指導技術の向上をめざして教員同士で情報交換や研究を行い、OJTの日常化を図る。	これまでの取組を継続しつつ、 ・「授業の流れ」と「振り返り」を明確にし、学習内容の定着を図る。 ・タブレット端末を用い、調べ学習やドリル学習の機会を増やす。	【教員】 ・「小テスト等の実施による、定期的な授業内容の振り返り」(84%) ・「ICTの活用・板書の工夫」(81%) ・「授業の流れの提示」(55%) ・「毎時間の振り返りの実施」(70%) ・「ICTの活用や授業技術向上のための情報交換の実施」(68%) 【生徒】「授業の内容理解」(76%)	「学び合いウイーク」や「ガーベラ会(メンター制)」, 各種校内研修をとおり、ICTの活用や授業技術の向上に向けて情報交換や研究を行った。「授業の流れ」や「振り返りの実施」に関しては、来年度以降も改めて意識の向上を図ってきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達や先生の話をしっかり聞き、今後の学習の参考にすることができる生徒が多い。 ●情報を正しく読み取ったり、意見や考えを、根拠を明確にして表現することが苦手な生徒が多い。	・自分の意見や考えを、相手の意見を尊重しつつ伝え合うことができる。 ・既存の知識や技能を、既習の知識と関連づけて、他の学習や生活の場面に活用することができる。	・ペアやグループによる意見交換の場を積極的に設け、生徒が考えをまとめたり思いを表現したりできるようにする。 ・教科部会や校内研修をとおり、発問の仕方や課題設定の工夫について考え、職員全体で共有し、授業改善を図る。	これまでの取組を継続しつつ、 ・生徒どうし話し合いや、考えを書く場面の中で、「相手にわかりやすく伝える」ための表現の工夫を考えさせる。	【教員】「生徒が自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、互いに伝え合う活動を取り入れている。」(76%) 【生徒】「授業中に先生や友達の意見を聞き、自分の考えと比較したり学習の参考にしたりしている」(77%)	「R80」等を取り入れ、生徒が授業を振り返り、書く機会を設けたり、教科部会や校内研修をとおり、「生徒が学び取る」授業をめざし、授業改善を図ったりした。今後も自分の思いや考えを書いたり発表したりする機会を作っていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には落ち着いて取り組んでいる。また、テスト実施前には学習計画の立案や目標点の設定等を行うなど、前向きに学習に取り組む生徒が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが、「夢の実現に向けた主体的な努力ができる」とまでは言えない生徒がやや多い。	・将来の夢をもち、その実現に向けて授業や家庭学習に主体的に取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけ、解決に向けて試行錯誤しながら粘り強く学習に取り組むことができる。	・「学力を伸ばしたい人のための生活改善10ヶ条」や「徳島市キャリア・パスポート」を活用し、基盤となる生活を整え、見通しを持って学習に臨めるよう、家庭と連携を図る。 ・「自主勉強ノート」の取組を継続的に評価し、その質と量が向上する指導を工夫する。	これまでの取組を継続しつつ、 ・単元導入時の課題設定や終末の振り返り活動を通して、自らの学習を省み、次の学習や生活場面に生かすための機会を設定する。	【教員】「『学習の手引き』等を1回以上配布し、生活改善を促し、学習方法を指導している」(83%) 【生徒】 ・「家庭学習にきちんと取り組み、少なくとも1時間以上勉強している」(73%) ・「定期テストの前には目標点や計画を立て、学習に取り組んでいる」(76%)	単元導入時の課題設定の工夫や、終末の振り返りをとおり自己の学習を省み、次に生かすための機会を設けてきた。今後も指導と評価の在り方について研究・研修を重ね、生徒が自ら調べたり考えたりしたくなるような課題設定や、粘り強く取り組ませるための手立てを考えていきたい。

令和4年度 学力向上ロードマップ

